

平成30年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	「関心・意欲態度、話す・聞く能力、読む能力」及び「漢字の読み」は全学年とも目標値を上回っている。「漢字や文章を書く能力」は、目標値や区平均に達していない学年が多い。作文や記述式の問題には今後の指導に課題がある。
社会	6年生は、内容・観点共に目標値を上回ったが、5年生は全般的に低めであった。関心・意欲が低く、また資料を読み解く力が不足していて、正答率の低下につながっている。
算数	2・5年生が「計算・図形」共に、区平均以下等の課題を有している。また4年を除く学年は、計算の能力は身に付いているが、図形についての知識・理解が不足している。
理科	全般的に区平均と同等の成績であるが、身近な自然事象への「関心・意欲」の低さと、それに起因する知識・理解の不足が、高学年にうかがえる。「実験・観察」には関心があり、技能についての知識も目標を上回っている。

本校の教育目標
① よく考える子 ② 助け合う子 ③ たくましい子

本校が児童に育成したい力
○基礎基本となる学力の定着と、体験的な学習や幅広い読書活動を通した深い知識理解。そして、主体的に知識を生活に生かしていく知恵と行動力。 ○互いに助け合い、人の道理を大切にす、思いやりの心。他人を共感的に受け止める道徳的態度。 ○安全や防災に対する関心。健康な身体と精神にとまなう強い意志と実践力。

学力向上にかかわる経営方針
○「主体的・対話的で深い学び」を目指し、それに伴う学力向上を実現する。 ・基礎・基本を身に付ける教育の推進 ・学習習慣と学習意欲の重視 ・体験活動の充実 ・自ら学び自ら考える教育の推進 ・家庭教育への支援と生き抜く力への新たな対応

校内における学力向上推進体制
○少人数授業の計画的な実施 ○指導体制の充実 ○授業力を高める教職員の研修の充実 ○長期休業中の学習教室 ○朝学習の時間の「算数タイム」「朝読書」 ○「学力フォローアップ教室」の実施

本校の授業改善に向けた視点				
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○基礎的・基本的な内容が確実に身に付くように、繰り返し学習や少人数指導などの工夫をする。 ○自ら考え、解決できる力を形成するため、問題解決の機会を意図して増やす。 ○学力PU講師・学級経営支援員、学生ボランティア等を活用し、個に応じた指導を充実させる。	○火曜日の朝に算数タイムの時間を設定し、反復練習を行い、算数の基礎・基本を定着させる。 ○金曜日に朝読書の時間を設定し、学習の基盤となる集中力や言語力・思考力の育成を図ると共に読書活動の充実を図る。	○テーマを「コミュニケーション能力の育成～対話的な授業づくり～」とし、新学習指導要領の実施に向けた指導方法や授業形態について研究するとともに、自分の思いや考えを伝え合う場を通して、児童の表現力を育み、人や社会と関わる能力を育成する。 ○外部講師を活用した実技研修を行い、授業力を高める。	○「適正な評価の実施」や「個人内評価の活用」など評価規準の精査に努める。 ○実践過程を見守り、努力を認め、励ます。 ○日常の授業で小テストや座席表などを活用して評価し、個に応じた指導に生かす。	○家庭学習の定着や地域ボランティア(田植え、地域行事、お話し会、読み聞かせ)を活用し指導の充実を図る。 ○交流教育、土曜公開、ホームページの更新、保護者会等を工夫する。 ○学校評議員およびPTA役員、児童館・子供クラブと連携を深める。